



ダンスイベント型授業②

【Vol.66】2018.10.

本物に触れることがアクティブ・ラーニングを加速させる



ミラーボールがまわり、スポットライトのみの照明。体育館の壁にはプロジェクターでイベント名が映し出され、ノリのよい音楽が流れています。生徒たちはいつもと様子が異なる体育館に入った瞬間、「うわ!」「すご!」といった感嘆詞を口にし、非日常の世界にひきこまれていきました。隣の生徒と話してはいるものの、これから何が起るのだろうとソワソワして落ち着かない様子です。そんな中突然、プロジェクターからイベントの概要が流されました。ボルテージが上がった時、全員の視線がステージ上の1人に。非日常の世界への案内人として来校してもらったプロのMCの方です。MCの方から発せられる一言一句に生徒たちは、笑い、声をだして反応し、いつもと違う緊張感から解き放たれ、まるで非日常の世界のお客から住人になったようでした。

いよいよダンスショーの始まりです。MCの方の案内でダンスチームによる本物のショーが、披露されています。様々なダンスジャンルが楽しめるように、チームを外部指導員として関わってもらっていた Repoll Planning に選んでもらいました。中にはメディアで活躍しているダンサーさんもいらっしゃいました。さらにチームの順番やMCの内容も練られており、生徒は身を乗り出し、食い入るように踊る姿を見ていました。この時のことを振り返って、次のような感想が見られました。

【生徒の振り返り】

- ・生でプロダンサーの踊りをみられて感動しました。
- ・自分たちの踊りと違い、キレと表現力がすごかった。
- ・MCの方の解説でダンスがよりわかった。
- ・会場の雰囲気すごかった。

ダンスショーが終わった後、ダンスショーで踊っていたダンサーさんに講師になってもらい、生徒たちはダンス作品を創るというワークショップを行いました。憧れをもったダンサーさんから振付や作品の創り方を教えてもらい、自分たちでアイデアを出していく姿は、いつもの授業よりも能動的でした。まさにアクティブ・ラーニングの姿がそこにあったように思います。

【生徒のワークショップでの学びの姿】

- ・保健体育の授業でダンスに積極的でなかった生徒も、積極的に振付を学ぶ姿が見られた。
- ・これまで学んできたことを活かし、振付や立ち位置を提案、工夫する姿が見られた。
- ・作品を創る途中に、身振り手振り、笑顔、握手、声かけといったコミュニケーションを豊かにするための行動がたくさん見られた。

作品ができあがった後作品を見せ合う場面では、踊る生徒・見る生徒はもちろん、会場にいる全ての人が1つになってダンスを楽しむことができました。

さて、ダンスイベント型授業は、「前半で本物のダンスに触れ、後半はこれまで培った力を駆使し作品創りという課題を解決し、最終的に発表する」というプログラムです。前半、非日常の世界で本物のダンスショーに触れることで、能動的に学びたいというアクティブ・ラーニングのスイッチが入り、そして後半の作品創りでは、総合的な学習の時間で示されている「探求型の学習における生徒の姿」である、＜課題の設定→情報の収集→整理・分析・まとめ・分析＞があらわれました。

授業終了後に撮った記念写真には、「生徒」だけでなく、「ダンサー」、「MC」、音響を担当した「専門学校生」、スタッフをした「地域の方」、学校長をはじめとする「教職員」、「PTA」といった連携・協働したメンバーが入っていることがとても印象的でした。

東京都板橋区立板橋第三中学校教諭 岡本和隆

